

□ ■ 2024 年の激戦のタイ自動車市場 ■ □



出典：スズキ

こんにちは。島根・ビジネスサポートオ・フィスのタイ人スタッフ、グラフです。

今年の5月から6月に渡り、タイの自動車製造業界では2つの大きいニュースがありました。スバルとスズキがタイでの四輪生産から撤退し、代わりに外国の生産拠点からの輸入車を販売することを発表したことです。これは、輸入関税なしで中国からの電気自動車がタイ市場に多く流入してきて、価格競争で負けることが大きな要因となっています。しかし、スバルとスズキは引き続きタイでの事業を続け、特定の顧客層に焦点を当てたマーケティング戦略と高クオリティーな製品を提供する予定です。

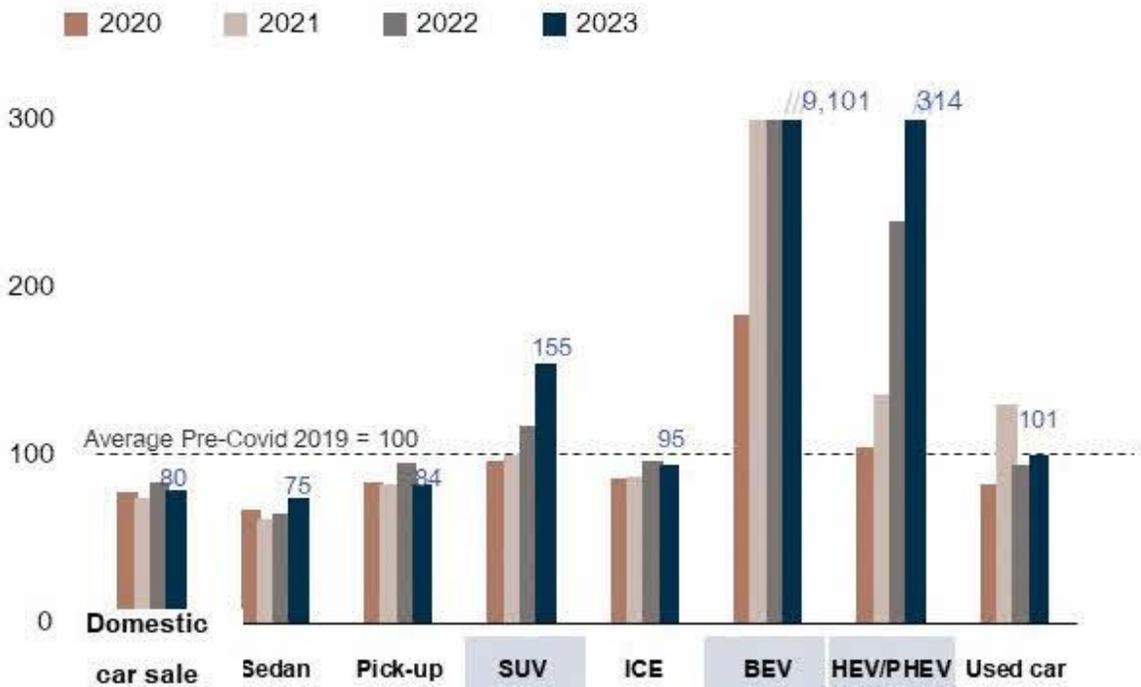
参考ニュース記事：[スズキ タイ工場閉鎖し現地生産から撤退へ 小型車販売伸び悩み](#)

今回は、現在のタイ自動車市場の現状と変化する消費者行動、そして各プレイヤーの戦略についてお話ししたいと思います。

・2024 年のタイ自動車市場の現状

過去 2～3 年間で、タイの自動車市場における競争は激化してきました。日本と中国のメーカーが価格とサービスで競い合い、先端技術の開発に注力しています。これらの動きは、COVID-19 の影響で需要が完全に回復していない中で消費者の関心を引きつけるためです。また、中国からの電気自動車（BEV）の急速な成長も影響しています。各メーカーがプロモーションや新モデルの発売を続けているにもかかわらず、タイの自動車市場全体は期待ほど活発ではありませんが、SUVとEV およびハイブリッド車は急速に成長している一方、従来の内燃機関車はゆっくりと回復しています。

タイ国内自動車販売および登録指数の推移表



出典：SCB EIC

・タイ自動車市場の直面するリスク

タイの自動車産業は、経済の脆弱性と消費者嗜好の変化という二重の圧力に直面しています。今後さらにリスクが増加する可能性も十分あります。

過去 5 年間、タイの自動車産業は非常に激しい競争下に置かれてきました。2022 年以前は、内燃機関車（ICE 車）メーカーが新車を投入し、シェア獲得を目指していました。しかし現在、タイの消費者は SUV や EV、ハイブリッド車への関心を高めています。SUV は過去 10 年間で市場シェアを着実に拡大し、EV も急成長しています。

そのため、自動車メーカーは顧客ニーズに合った製品開発に注力する必要があります。SUV や電気自動車、ハイブリッド車の開発が不可欠であり、対応できなければ、ブランドロイヤルティを失うリスクがあります。特に、日本メーカーは EV 市場への参入が遅れており、中国メーカーの成長に対抗することが課題となっています。日本車の市場シェアは、2019 年の 86%から 2023 年には 73%に減少しました。

欧米メーカーは EV のラインアップは少ないものの、SUV の多彩な選択肢を武器にシェア獲得を目指しています。一方、中国メーカーは SUV と EV の両方で魅力的な製品を揃え、デザインと価格で消費者を引き付けています。その結果、日欧メーカーを上回る高成長を遂げています。

しかし、日本車は品質と充実したアフターサービスへの信頼が強みです。特に、過酷な使用に耐える車が求められるタクシーや商用車の分野では、日本ブランドが根強い人気を誇ります。



タイのタクシーの定番車種はトヨタ・カラーアルティス

・中国メーカーの驚異的な価格競争力

タイの自動車メーカーは、競争の増加と市場トレンドの変化に対応するため、戦略の再構築を迫られています。迅速な変化への適応と競争力強化のための事業計画が成長の鍵を握っています。しかし、高性能な製品と際立つデザイン、価格競争力を持つ中国メーカーの存在は脅威です。日本メーカーやテスラですら、価格引き下げを余儀なくされています。コストと価格で対抗できないメーカーは、スバルやスズキのように事業モデルの転換を迫られるかもしれません。



2024年2月にBYD・ATTO3は通常価格から15万バーツ（約60万円）値下げされました。

出典：www.thansettakij.com/

Model	Original Price	Special Price
Ciaz 1.2 GL 5MT	528,000	378,000
Ciaz 1.2 GL CVT	564,000	414,000
Ciaz 1.2 GLX CVT	628,000	478,000
Ciaz 1.2 RS CVT	678,000	528,000

2024年3月にスズキ・シアズは通常価格から15万バーツ（約60万円）値下げされました。

出典：www.Headlightmag.com

・結論

タイの自動車市場は、長年市場を支配してきた日本車メーカーにとって正念場を迎えています。中国のEVによる挑戦は、日本車が品質とアフターサービスで得た信頼を維持しつつ、変化する消費者ニーズに対応することが一番課題でしょう。例えば、トヨタは、ASEAN 市場向けに開発したヤリス クロスで、最先端技術と燃費性能、デザイン、価格を高次元で両立させ、成功を取っています。これはダイハツとの共同開発によるコスト削減が奏功した好例です。



大人気の ASEAN 市場向けのトヨタ・ヤリスクロス

出典：Toyota (Thailand)

今後もタイの自動車市場は激動が続くと予想されます。日本メーカーが生き残るためには、変化を先取りし、新たな価値を提供し続けることが重要です。技術力とブランド力、そしてパートナーシップを活かした柔軟な戦略が求められるでしょう。

参考：[SCB EIC](#)

□ ■ シンガポールのメドテックの現状と未来 ■ □



こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスの柴田です。

シンガポールは、世界有数のメディカルテクノロジー（メドテック）ハブとして急速に成長しています。この成長は、政府の支援、強力なインフラ、高度な研究開発（R&D）環境に支えられています。この記事では、シンガポールのメドテック産業の現状と未来について詳しく紹介します。

・メドテック産業の現状

シンガポールは、医療機器の設計、開発、製造においてアジアの中心地として位置付けられています。国内にはメドテック企業が400社以上あり、1万6,000人を超える雇用を生み出しています。

近年の同分野の成長は顕著であり、2022年の生産高は190億シンガポールドル（約2兆2,700億円）を上げており、2021年から約20億シンガポールドル増加しています。更に2012年比では約4倍にまで拡大していることから、市場の急速な成長が見て取れます。

このメドテックの成長には以下の要因が上げられます。

1. グローバル企業の進出

メドテック分野の大きな柱となっているのが、海外ヘルス企業の誘致です。国内には現在、メドトロニック（本社：アイルランド）、ジョンソン・エンド・ジョンソン（本社：アメリカ）、バクスター（本社：アメリカ）など、同分野の主要な多国籍企業が数多く拠点を構えています。現在、シンガポール国内には50社超が地域拠点を設置しており、35社超の多国籍企業が工場を置いています。

また、研究開発（R&D）拠点の誘致も進んでいます。2023年10月には顕微鏡大手のドイツのライカマイクロシステムズが8,200万シンガポールドルを投じて手術用顕微鏡の製造・研究開発拠点を設置。同年12月には心臓ペースメーカーや高度患者管理システムの製造・販売を手がけるドイツの医療機器メーカーのバイオトロニックが、総延べ床面積2万平方メートルの製造・研究開発施設を開設しました。

2. 政府の支援

シンガポール政府はメドテック産業を重要な成長分野として位置づけ、様々な支援策や政策を導入しています。例えば、研究開発（R&D）に対する補助金や税制優遇、スタートアップ支援プログラムなどが含まれます。

以下に補助制度、支援プログラムを行う機関を紹介します。



・**A*STAR (Agency for Science, Technology and Research)** : A*STAR は、科学技術の研究を推進し、メドテック企業への資金援助や研究施設の提供を行っています。

・**National Research Foundation (NRF)** : メドテック分野を含む様々な分野の研究開発に対する資金援助を提供し、スタートアップ企業や研究機関との連携を促進しています。

・**SGInnovate** : ディープテックスタートアップに対する投資や支援を行う政府機関で、メドテックスタートアップにも積極的に関与しています。資金提供だけでなく、メンタリングやネットワーキングの機会も提供しています。

・**Health Sciences Authority (HSA)** : シンガポールの医療機器や医薬品の規制機関であり、新しいメドテック製品の迅速な承認をサポートしています。また、企業が規制要件を理解し、遵守するためのガイドラインやリソースも提供しています。

3. 研究開発の強化

シンガポール政府では、研究機関と大学が連携した高度な R&D を推進しています。国内の「バイオポリス」や「フュージオポリス」などと呼ばれる研究拠点は、シンガポール政府が設立、運営を支援しており、ライフサイエンス分野における研究開発の推進を研究資金の提供や税制優遇を通して積極的に行っています。

・**バイオポリス**：ライフサイエンスとバイオテクノロジーの研究・開発の中心地であり、多国籍のライフサイエンス企業、研究機関、大学などが集まり、共同研究やイノベーションを促進する環境を提供しています。最先端のラボ、オフィス、会議室や商業化支援施設が備わっており、研究者や起業家が新しい医療技術やバイオテクノロジーの発展を目指して共同作業を行います。

・**フュージオポリス**：科学技術分野の研究者、イノベーター、企業が集まり、クロスディシプリン（異分野間）の研究とイノベーションを推進する場所として設立されました。さまざまな業種の企業や研究機関が相互に連携し、新しい技術や製品の開発を進めています。

・シンガポールのメドテックの未来

シンガポールのメドテック分野ですが、上述の外資企業の誘致や政府の積極的な投資により今後も堅調な成長が予測されています。この分野において、特に以下のトレンドに関心が集まっています。

1. デジタルヘルス

シンガポールでは、ヘルスケアのデジタル化と技術革新を通して、医療の質の向上と効率化を目指しています。具体的な取り組みの例としては以下が挙げられます。

・**健康テクノロジーの推進**：シンガポールでは、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ビッグデータ分析、クラウドコンピューティングなどの先端技術を活用した健康テクノロジーの研究開発が盛んです。これらの技術は、医療診断、治療、健康管理の各段階での効率化と精度向上に寄与しています。



・**インフラの整備**：シンガポールでは、デジタルヘルスのインフラ整備に力を入れています。例えば、電子健康記録（Electronic Health Records, EHR）システムの導入やデータの標準化、相互運用性の向上を推進しています。これにより、医療情報のシームレスな共有とアクセスが可能になり、患者のケアの効率化が期待されます。

・**テレヘルスと遠隔医療**：特に COVID-19 パンデミックの影響を受けて、世界的にテレヘルス（Telehealth）や遠隔医療の普及が急速に進んでいます。シンガポールも例外ではなく、患者は自宅から医師とオンライン

で診療を受けることが可能です。これにより、患者の便利さと医療サービスのアクセスが向上しました。

2. 高齢化社会への対応

アジアの医療機器市場は 30 年までに 2,250 億 US ドル（約 36 兆 1,900 億円）規模になると予想されています。域内の人口は同年までに世界人口の 60%を占め、うち 4 分の 1 が 60 歳以上の高齢者となります。シンガポールは域内の中でも特に高齢化が進む国であるため、高齢者向けの医療ソリューションの需要が高まっています。

・**予防医療と早期診断**：メドテックの進化は、予防診断と早期診断にも大きく貢献しています。テクノロジーの恩恵を受ける分野の 1 つが画像診断制度の向上です。AI を利用したスクリーン技術やバイオマーカーの開発により、高齢者の疾病リスクの予測や、がんなど症例の早期発見・対策が可能となります。

・**ロボティクスと介護支援装置**：ロボティクス技術を活用した支援装置や介護ロボットの開発が進んでいます。これらの技術は、高齢者の日常生活の支援や身体的な介護を効率的に行うことができます

・**データドリブンな健康管理**：データ分析と人工知能（AI）を活用した健康管理システムが導入されています。これにより、個別化された健康ケアプランの提供や、医療データのリアルタイムモニタリングが可能になり、高齢者の健康管理が向上、未病や不調の早期発見の一助となっています。

シンガポールでは、これらのメドテック技術を活用することで、高齢化社会に適応した持続可能なヘルスケアシステムの構築が進められています。政府や企業が積極的にイノベーションを推進し、高齢者の健康と生活の質を向上させる取り組みが行われています。

・最後に

シンガポールのメドテック産業は、政府の支援と強力なインフラにより、アジアにおける主要なハブとしての地位を確立しています。デジタルヘルス、高齢者向けの医療ソリューションなど、今後の成長が期待される分野に注力することで、シンガポールはこれからも引き続き、アジアのメドテックを牽引する存在としての進化が期待されます。技術革新と持続可能性の両立を目指し、シンガポールのメドテック産業は世界に向けてさらなる発展を目指します。



□ ■ タイにおける日本のポップアップストア及び展示会 ■ □

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、バンブーです。

日本と言えば、漫画やアニメなどポップカルチャーが有名であり、日本を世界に知らしめるきっかけとなっています。外国人はこれらのコンテンツを通じて、日本の文化、思想、信念を学ぶことができます。新型コロナの収束後、日本の漫画やアニメなどをタイ国内でPRするために、様々な展覧会やポップアップストアが開催されています。今年の6月には、人気アニメ「Spy × Family」のポップアップストアと「妖怪大行進—日本の異形のものたち」展が開催されましたので、見学してきました。この記事ではこれらのイベントについて紹介いたします。

イベント名: SPY×FAMILY POP UP STORE THAILAND

開催期間: 2024年5月1日～6月30日

開催場所: MBK Center (バンコク)

「SPY×FAMILY POP UP STORE THAILAND」は、人気アニメ・漫画シリーズ「SPY×FAMILY」のポップアップストアです。このイベントは、約2ヶ月にわたりバンコクで開催され、ファンが作品の世界観を楽しむための様々なコンテンツや商品が用意されました。



「SPY×FAMILY」は、遠藤達哉による同名マンガで、アニメ化もされているコメディ作品です。コミカルな要素と緊張感のあるストーリー展開により、タイでも幅広い層に支持されています。



ポップアップストアの特徴

- 限定グッズ: SPY×FAMILY のキャラクターをモチーフにした限定グッズが販売されます。フィギュア、キーホルダー、T シャツなど、タイ限定グッズも複数販売されていました。
- 展示コーナー: アニメやマンガのシーンを再現した展示が設けられ、ファンが写真を撮って楽しめるフォトスポットとなっています。
- 特典イベント: 購入額に応じた特典が用意されており、限定ポストカードやサイン入りポスターなどがもらえるチャンスがあります。



イベントの見どころ

- フォトブース: SPY×FAMILY の世界観を再現したフォトブースが設置されており、来場者はキャラクターと一緒に写真を撮ることができます。
- コスプレイベント: 特定の日にはコスプレイベントが開催され、参加者はお気に入りのキャラクターに扮してイベントに参加しファン同士の交流ができます。

前述の通り、「SPY×FAMILY」はタイでも非常に人気のある作品です。ユニークなストーリーと魅力的なキャラクター、アニメ化の影響、積極的なマーケティング活動が人気の要因です。家族愛や友情といった共感を得

島根・ビジネスサポート・オフィス便り vol.117

やすいテーマも、多くの人に受け入れられる要因となっています。「SPY×FAMILY POP UP STORE THAILAND」は、ファンにとって作品の世界観を身近に感じられる貴重な機会となります。



続いて、国際交流基金が開催した「妖怪大行進—日本の異形のものたち」展を見ていきましょう。

展覧会名：妖怪大行進—日本の異形のものたち

開催場所：TCDC Bangkok、Gallery FL 1、The Grand Postal Building（バンコク）

開催期間：2024年6月15日～7月28日、10:30時～19:00時（月曜日休館）



国際交流基金バンコク日本文化センターで開催されている「妖怪大行進—日本の異形のものたち」展は、国際交流基金が、クリエイティブ・エコミー・エージェンシー（Creative Economy Agency; CEA）と共同開催しているイベントです。



日本妖怪博物館の湯本豪一名誉館長が監修したこの展覧会では、絵巻や錦絵を中心に、おもちゃや映画などを通して現代まで広がる日本の妖怪文化が紹介されています。展示されている作品や資料から、日本では妖怪がどのように描かれ、そして時代と共にどのように変遷してきたのかを詳しく知ることができます。

特に目を引いたのは、妖怪が跳梁跋扈（ちょうりょうばっこ）する華やかな妖怪絵巻でした。特に有名な百鬼夜行絵巻は、その名称の通り、幾多の妖怪たちが生き生きと描かれ、まるで動き出しそうな迫力でした。古くから描き継がれてきた作品に加え、新しい画題の多様な妖怪絵巻も多く展示されており、その豊かな想像力に圧倒されました。



次に訪れたのは、江戸時代に発展した木版印刷の技術がもたらした極彩色の妖怪世界です。多色刷りの錦絵は、その鮮やかな色彩と細部まで描かれた妖怪たちの姿が、見る者の心を捉えました。これらの錦絵が当時の人々にどれほど親しまれ、妖怪が身近な存在となっていたかがよく分かる展示でした。

さらに進むと、妖怪が人々の遊びの中に浸透していった様子が紹介されていました。双六やカルタ、おもちゃ絵などに描かれた愛嬌のある妖怪たちは、子供たちにも強く支持されていたことが分かります。怖さが和らぎ、親しみやすい存在となった妖怪たちの姿を、微笑ましく感じました。



最後に訪れたのは、現代まで受け継がれる妖怪文化の展示でした。明治時代以降、妖怪は学問としても体系的に論じられるようになり、一方で漫画やアニメ、ゲームといった現代のメディアにも登場しています。これにより、妖怪文化は世代や国を超えて広がり続けていることが実感できました。



今回の展示の中で特に印象に残ったのは、妖怪たちが描かれた絵巻や錦絵の美しさと、その多様な表現です。古代から現代に至るまで、日本の妖怪文化がどのように発展し、人々の生活や信仰と結びついてきたのかがよく分かる展示でした。また、現代の映画や玩具に登場する妖怪たちの姿を見ることで、妖怪文化が今なお生き続けていることを実感しました。

【最後に】

どちらのイベントも、異なる角度から日本の文化を深く体験することができ、大変満足のいくものでした。「SPY×FAMILY」のポップアップストアでは現代の人気作品の魅力を存分に味わい、「妖怪大行進」展では伝統文化とその進化を感じることができた素晴らしい体験でした。



島根・ビジネスサポート・オフィス便り vol.117

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください

担当：柴田 隼介 Shunsuke Shibata

Address: 1 VASU 1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,

Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

▶ タイ経済指標

項目	単位	2021	2022	2023	2024
GDP 成長率	前年比ベ (%)	1.8	2.7	1.9	1.5 (3月)
人口*	千人	68,161	69,922	70,104	70,164 (4月)
労働者の数*	千人	38,631	40,143	40,674	40,115 (5月)
失業率**	%	1.94	1.32	0.98	1.07 (5月)
最低賃金*	バンコク	331	353	353	363
	チョンブリー	336	354	354	361
	アユタヤー	325	343	343	350
	ラヨーン	335	354	354	361
賃金：全国製造業の平均	パーツ	13,506	14,305	14,416	14,407 (5月)
インフレ率**	前年比ベ (%)	1.24	6.08	1.23	0.06 (1月)
中央銀行政策金利*	%	0.50	1.25	2.50	2.50 (6月)
普通貯金率**	%	0.25	0.28	0.40	0.43 (5月)
ローン金利 (MLR) **	%	5.42	5.50	6.83	7.17 (5月)
SET 指数*	1975年：100	1,657.62	1,668.66	1,415.85	1,300.96 (6月)
パーツ/100円**	パーツ	29.15	26.78	24.82	23.81 (6月)
パーツ/米ドル**	パーツ	31.98	35.06	34.80	36.18 (6月)
円/米ドル**	円	109.8	131.38	144.07	152.17 (6月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	736,716	856,057	702,921	261,209 (5月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,572	1,554	2,383	785 (3月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億パーツ	511.9	618.62	750.12	254.92 (3月)

*期末、**平均